



2019年8月13日

各 位

会 社 名 ダブル・スコープ株式会社
代表者名 代表取締役社長 崔 元 根
(コード番号 6619 東証第一部)
問合せ先 取締役 大内 秀雄
(TEL 03 - 5436 - 7155)

中期経営計画『Vision 2022』策定に関するお知らせ

ダブル・スコープ株式会社では、2018年8月公表の中期経営計画を更新し、2022年12月期までの中期経営計画『Vision 2022』を策定いたしましたので、概要を以下のとおりお知らせいたします。

この中期経営計画更新の目的は、当社の主要顧客各社の電気自動車用リチウムイオン電池生産が東アジア及び欧米において大幅な増産計画が推進される中、中長期的な需要も高まっており、これに照らし合わせた中期の販売計画及び設備投資計画を具体化し、事業の成長性をより明確にするためのものです。

記

1. ビジョン

メンブレンフィルム専門メーカーとして、リーディングカンパニーを目指します。

2. 成長への基本戦略

① リチウムイオン電池セパレータ事業

2010年台に入り、東アジアを中心に民生用途及び輸送機器用途に向け急速に市場を拡大してきましたが、2018年後半より欧州自動車メーカーのEV戦略の具体化に伴い、更に市場の拡大が加速しました。

輸送機器の電動化は更に進む見通しとなっており、2023年には、世界自動車市場に於いておよそ30%の新車販売がEV及びHEVになるとの見通しも出ております。

当社では、このような市場見通しの中、主要顧客ともEV用途を含む2024年までの長期供給の合意を取り交わしており、需要の伸びに対応すべく以下の成長戦略を実行します。

- 市場の拡大に伴う生産能力の拡大
- 大型製造ラインによる生産性の追求
- 製造原価低減へのチャレンジ
- 電気自動車やハイエンド民生機器の安全性を担保する安全性の高いセパレータの開発

② 新規事業への取り組み

当社の事業はリチウムイオン電池用セパレータの単一セグメントとなっておりますが、当社の保有する生産技術は基本的にはメンブレンフィルムの製造技術です。この技術を応用し、今後更に以下の様なセグメントに取り組むべく製品開発を続けて参ります。

- エネルギー関連用途：次世代電池・キャパシタ等
- 水関連用途：イオン交換膜、水処理フィルタ等
- 空調関連用途：不可逆フィルタ等
- 医療用途：透析膜、人口皮膚等

3. 設備投資計画

当社では、大韓民国忠清北道吾槍市の製造子会社 W-SCOPE KOREA CO., LTD. (WSK) 3区画の工場用地にて、既にセパレータ量産ライン9本が稼働中であり、コーティングラインも10本が稼働中です。

さらに、同忠州市の製造子会社 W-SCOPE CHUNGJU PLANT CO., LTD. (以下、WCP) では2本の大型セパレータ量産ラインが稼働を始めており、2019年下期には更に2本の大型セパレータ量産ラインの据え付けを

完了し試運転中となっております。更に2本のコーティングラインも据え付け工事中で本年中の量産稼働を目指しております。WCPには今後も成膜ライン及びコーティングラインの投資を継続する計画です。

4. 計数目標（連結ベース）

単位：百万円

	2018年 12月期(実績)	2019年 12月期(予想)	2020年 12月期(計画)	2021年 12月期(計画)	2022年 12月期(計画)
売上高	8,731	13,000	23,000	31,500	45,000
営業利益	△3,348	△2,600	2,500	6,500	10,000

※2020年12月期以降の売上高に関しては、主要顧客との長期供給の合意に基づく販売数量の構成比が高いため、Vision2021でレンジを持たせていた計画を一本化しました。また、2019年12月期の売上下方修正の要因となった米中貿易摩擦の影響を受けている案件に関しては、Vision2020に於いても一定の調整を折り込んでおります。

前提条件

円対1米ドル	110.4円	上期実績 110.0円 下期予想 105円	105円
円対1,000ウォン	100.4円	上期実績 96.0円 下期予想 93.8円	93.8円
ウォン対1米ドル	1,100.3ウォン	上期実績 1,146.0ウォン 下期予想 1,120ウォン	1,120ウォン

本資料に記載されている将来の業績に関する予想、計画等は現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって変動する可能性があります。

以 上